

普通科改革支援事業 指定校発表会

「新しい学び(カリキュラム)を創る」
ではなく「新しい学校を創る」

(福岡県) 北九州市立高校

事業企画室長 村上悟史

未来共創科主任 吉岡正俊

カリキュラムコーディネーター 廣川祐司

<本日の報告内容>



- ① 学校の基本情報
- ② 新学科における特色ある教育内容
- ③ 新学科設置に際して苦労・工夫している(した)こと
- ④ 指定終了後の取組継続について
- ⑤ 普通科改革をステップに
常にチャレンジし続ける学校に向かって

①学校の基本情報

[illegible]

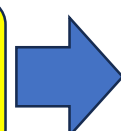
② 新学科における特色ある教育内容

- 学校設定科目や総合的な探究の時間の
具体的なカリキュラムデザイン
→ A) 週3時間 (イチリツPJ)、B) 上級生が下級生を指導する仕組み、C) 継続した「社会人・大学生」との連携事業

発見する力
1年生前期



まとめる力
1年生後期



対話する力
2年生



共創する力
2年生後半・3年生

<特徴>

- A) 総合的な探究の時間(1単位)＋学校設定科目(2単位)
- B1) 学びの運営リーダー (イチリツPJ全体の企画・運営)
& プロジェクトリーダー (各PJの推進) の育成
- B2) 異学年・異コース合同のPJチーム
(各学年8名×3学年＝24名で1チームを構成)

② 新学科における特色ある教育内容

C1) 共育型インターンシップ（インタビューシップ）

- 1年生全200名、一人ずつ2日間受入企業様を訪問、
経営者&従業員に「働く理由」を問うキャリア教育
(with 福岡県中小企業家同友会)

C2) 大学生と担任教諭との授業の共同実施体制の構築

- 担任&副担任教員が、月1回程度の頻度で、北九州市立大学
地域創生学群の大学生と共同で授業を行う。

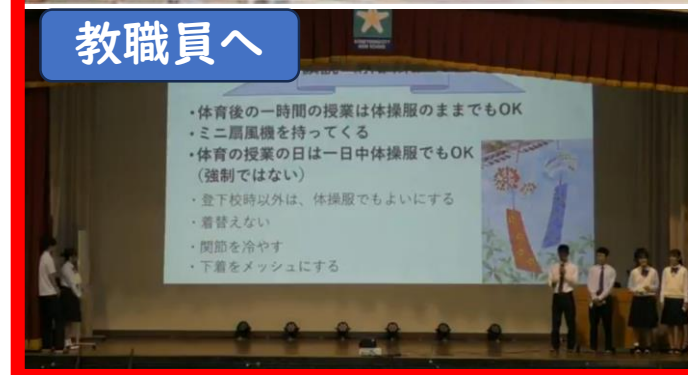


② 新学科における特色ある教育内容

- 生徒の学ぶ意欲を持続させるための工夫

→外部者と単発的ではない連携体制の構築

→高校生Ringを軸とした継続したアウトプットの場の形成



③新学科設置に際して 苦労・工夫している(した)こと

- ・特色ある学校づくりのための特色ある入試制度改革
→特色化選抜：コミュニケーション重視型の創設

北九州市立高等学校の入試改革 (特色化選抜の見直し)

令和5年度の特徴化選抜 評定値(普通科32、情ビ科30)と面接(志望動機など)



評定値や偏差値(入学できるかどうか)で選ばれる市高から
スクール・ポリシーを踏まえて「この学校でぜひ学びたい!」と
求められる市高へ

令和6年度の特徴化選抜

●評定重視型選抜

- ・調査書の3年次の評定合計が32以上かつ「観点1」の評価が十分であると認められる者
- ・1グループ5名程度でグループ面接(志望理由等が市高のアドミッション・ポリシーに合致しているかなどを問う内容)

●コミュニケーション重視型選抜

- ・調査書の3年次の評定合計が27以上かつ「観点1・2」の評価が十分であると認められる者
- ・1グループ5名程度でグループワークに取り組み、課題解決の過程を評価。グループ面接も実施

観点1	「他者の意見や他者から求められている事」及び「与えられた課題」に対して、自分の考えを表現することができる。
観点2	他者と協働し、主体的に課題解決に取り組むことができる。

入学者選抜試験の志願状況 (R5・6年度比較)

① 特色化選抜

	R5年度入学者選抜		
	予定人数	志願者数	倍率
普通科	36人	26人	0.72
情ビ科	54人	39人	0.72
合計	90人	65人	0.72

② 推薦

普通科	32人	33人	1.03
情ビ科	48人	69人	1.44
合計	80人	102人	1.28

③ 一般

普通科	23人	33人	1.43
情ビ科	13人	26人	2.00
合計	36人	59人	1.64

	R6年度入学者選抜		
	予定人数	志願者数	倍率
未来共創科	60人	139人	2.32
評定重視	(51人)	(85人)	(1.67)
コミュ重視	(9人)	(54人)	(6.00)
情ビ科	40人	27人	0.68
評定重視	(34人)	(20人)	(0.59)
コミュ重視	(6人)	(7人)	(1.17)
合計	100人	166人	1.66

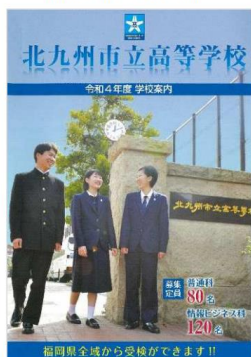
未来共創科	54人	76人	1.41
情ビ科	36人	36人	1.00
合計	90人	112人	1.24

未来共創科	15人	40人*	2.67
情ビ科	19人	27人**	1.42
合計	34人	67人	1.97

③新学科設置に際して 苦勞・工夫している(した)こと

- ・生徒募集のための工夫 (by 事業企画室の教員)
→プロモーション動画の作成、学校案内や広報物の刷新

令和4年度 学校案内



令和5年度 学校案内



令和6年度 学校案内

令和6年度 学校案内



(出演してくれた生徒たち。前列右は本校校長。)

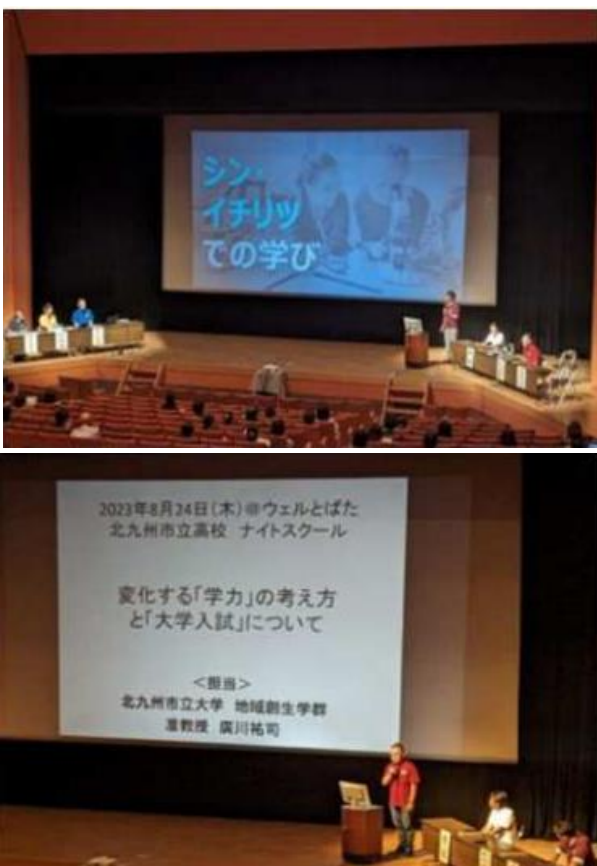


【プロモーションビデオ URL】 <https://youtu.be/UvORD4lmutE?feature=shared>

9月26日 普通科改革支援事業 指定校発表会 (北九州市立高校：福岡県)

③新学科設置に際して 苦労・工夫している(した)こと

- 地域の中学生、保護者へのPR→ナイトスクールの開催
- 教職員、生徒たちの意識の変化→高校魅力化評価システム



【「高校魅力化評価システム」の結果比較（教職員編）】

	質問項目	R 4 年度 教職員回答	R 5 年度 教職員回答
主体性	失敗を恐れずに挑戦することができている。	58.3%	48.0%
	目標や当事者意識をもって挑戦することができている。	73.3%	60.0%
	自身の挑戦に、周囲を巻き込もうとしている。	40.0%	40.0%
	挑戦する人に対して、応援することができている。	73.3%	84.0%
	誰かが何かに挑戦しようと思ったとき、手を差し伸べている。	80.0%	84.0%
	子どもの自己決定を尊重できている。	63.3%	68.0%
協働性	人と違うこと、異なった意見を尊重している。	43.3%	68.0%
	ありのままの個人を尊重している。	56.7%	76.0%
	自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している。	50.0%	76.0%
	立場や役割を超えて協働している。	63.3%	68.0%
探究性	本音を気兼ねなく発言できる。	26.7%	40.0%
	地域に、将来のことや実現したいことを話し合える人がいる。	30.0%	48.0%
	生徒に対してじっくりと話を聞き、考える手助けができている。	80.0%	76.0%
	お互いに問いかけあう機会がある。	46.7%	64.0%
社会性	自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会を持っている。	26.7%	60.0%
	生徒の関心に合わせて、機会を提供できている。	66.7%	64.0%
	地域の人や課題などにじかに触れる機会を持っている。	26.7%	44.0%
	地域で生徒を育てるという意識を持っている。	36.7%	52.0%
	この学校を中学生にすすめる。	56.7%	60.0%
	この学校に関わってよかったと思う。	76.7%	80.0%
	この地域を、将来暮らす場所としてすすめる。	66.7%	80.0%
	授業の質の向上につながっている。	40.0%	68.0%
	自身の資質・向上につながっている。	36.7%	80.0%
	学習意欲が高まった生徒がいる。	46.7%	76.0%
	業務負担感の軽減につながっている。	0.0%	8.0%

<協働性>

「自分とは異なる立場や役割を持つ人と交流している」：前年比26%増

50%→76%へ

「授業の質の向上に繋がっている」

40%→68%へ

「自身の資質・向上に繋がっている」

36.7%→80%へ

④ 指定終了後の取組継続について

A) 福岡県中小企業家同友会さんとの共育型インターンシップ（インタビューシップ）の取組継続

B) 高大連携事業の取組継続

＝相互にwin-winの関係性の構築

市高さんとのインタビューシップは、「社員教育」のためにもなっている。

高校生から、この企業で働いている理由や、会社の理念を聞かれるため、事前に社員間で話あってくれている。



福岡県中小企業家同友会
代表理事

市丸 皓士



北九州市立大学 准教授

廣川 祐司

大学にとって、高大接続・高大連携は至上命題となっている。

現に、継続的に関わっている市高生たちは、本学への志願者が増加している。同じ理念を共有できる高校を増やしていきたい。

④ 指定終了後の取組継続について

- ・自治体予算でのハード整備実績等
→新しい校舎やアクティブラーニングしやすい教室の整備
- ・本支援事業以前から存在する「スクールヘルパー（北九州市教育委員会 地域学校協働活動推進員）」の制度を継続利用



スクールヘルパーに登録している大学生

⑤ 普通科改革をステップに 常にチャレンジし続ける学校に向かって

- ★開科式・入学式を学校外の会場で
- ★特色ある入試選抜（選抜方法と外部助言者の導入）
- ★ナイトスクール
- ★大学教授と大学生との学び創り
- ★学校プロモーション動画を生徒企画へ
- ★できるかどうかわからないけど

誘われたものはチャレンジへ

【教員】講演会での講話依頼

【生徒】イベント企画「それ行け小倉城」 「防災」

【生徒】300名の経営者に向けた発表 など

実感できる
「校風」の変化

挑戦こそ是とする学校へ

これまでなら、「やらなかった学校」から
職員も生徒も関わる人々も巻き込み

チャレンジする→チャレンジしたくなる学校へ